

ウサヒ空腹 「森のだんらん編」

ウサヒ空腹 「森のだんらん編」

2月28日午後2時。

この日、桃色ウサヒは山辺町と境の送橋地区にいました。

お目当てはこちら



旧送橋小学校を使って活動している

「朝日町産業創造センター」です。

ウサヒ 「いえーいーい！！」

??? 「わほーい！！」



……おや、となりのピクニック気分の男はだれ??

今回一緒に探検をしてくれるゲストは

(間違っ紛れ込んだピクニックの人ではありません)

昨年4月に今平地区に移住してきた水沼佑太君です。

広報あさひまちのコアな読者ならご存知と思いますが

数奇な運命と人生観のもと、この町にやってきた水沼君。

要約すると

「地方で暮らしたい、でも働く場所がない」

こんな言葉が当たり前のように飛び交う現代で、

「地方が困ってるってことは、何か俺のできる仕事があるんだろう!!」

っていう楽観的かつ、本質的な思いを持ってこの地に来た冒険家です。

確かに、「仕事が無いから帰れない」っていうのは、

従業員になりたい人が、誰かに働かせてもらう事を前提とした意見なわけで、

よくよく考えてみたら「行って自分で仕事を見つける・作る」ことも、

選択肢としては十分に可能性がある発想なのです。

まあ、夢見がちにはなりますが、

それでもやってみようと、水沼君は日々奮闘しています。

今回は彼が農大卒ということもあり、

何か一緒に話を聞いたらおもしろい事が起こるのではないかと思い、

ウサヒから取材に誘ったのでした。

ウサヒ「というわけで、産業創造センターを探検だ！！」



道場破りではない、Pr キャラクターである

いざ、探検開始と思ったその時だった……

???「ちょ、ちょっとまってくれよ～」



…背後にもう一人いる。

ウサヒ「誰??」

今城「高知大学の講師をしている今城(=写真右)といいます。

実は着ぐるみで地域を盛り上げる研究をしまして、

本日はウサヒさんの仕事を見学することになりました。」

水沼「え??こいつのただの着ぐるみですよ。」

今城「大丈夫です!!普通の着ぐるみなのに

いつの間にか地域をPrしちゃうこのウサヒの秘密を

私なりに探ろうと思います!!」

ウサヒ「Ok、じゃあ、今日は3人で探検だ!!」

本当の話です。

この日は、高知大学から着ぐるみによるコミュニケーションの可能性(着ぐるみ学)を提唱されている、今城逸雄先生がいらっしゃいました。

せかっくなので、先生からは研究者目線からいろいろお話をしてもらおうと思い、同行してもらうことに。

こうして、ウサヒの探検始まって以来の大所帯で取材をすることになったのです。

産業創造センターって何??

まず一行が通されたのは会議室。

とにかく、この産業創造センターが何かを聞くことに。

お話をしてくれるのは職員さんの

菅井正人さん(手前)と、菅井伸昌さん(奥)である。



男性と着ぐるみしかない会議室は多少暑苦しい。

何から話し始めようと悩んでいる中、口火を切ったのはまさかの今城先生だった。

今城 「菅井って苗字、朝日町は多いんですね。」

ウサビ 「産業創造関係ねえ！！」

正人さん 「なるほど、いい質問だ。」

ウサビ 「おお、いいのかこんな質問で？！」



思いのほか、丁寧に菅井の姓について解説してくれた。

ちょっと見た目が怖そうだが、優しい人である。

ちなみに、全国的に見ればそれほど多くない「菅井」の苗字だが

なんと、朝日町和合地区では、住民の6割が「菅井」である。

ちなみに、今回のカメラ担当も、ウサヒの上司スガイ君(20歳)である。

「菅井さん」と呼ぼうものなら、複数が振り返る可能性が高い。

なお、白田や清野といった姓も町内には多い。

先生のおかげで場の雰囲気はちょっと和んだところで

水沼 「さて、本題なんですけど、産業創造センターでは

具体的にはどんなことをやっているんですか??」

ウサヒ 「…あれ、それ、僕のセリフ…」



ウサヒの仕事を奪い始めた水沼君と今城先生。

周囲に漂う「今日はこの着ぐるみいらないんじゃない??」という雰囲気

正人さん「センターで働くのは『産業創造推進機構』のメンバーで、

主に、朝日町で新しい農業関係の事業を始めたい人や団体に

アドバイスや、技術を提供しているんだ。」

正人さんの話をまとめると

- ・産業創造推進機構は商品開発のサポート団体。
- ・朝日町で新しい産業を企画したい人・団体の希望に合わせて支援を行っている。
- ・消費者の欲しい商品は何か、販売店の欲しい商品は何かといった、生産者とは別の目線からアドバイスを行う

ウサヒ「とりあえず、農業関係で新しいことを始めたいなら、ここに声をかけてみればいってことだね」

正人さん 「まあ、ざっくり言ってしまうえばそうだね。まず話を聴いて、適した場所の紹介もうちではやってるから。」

水沼 「規模はどのくらいまで支援してくれるですか？」

正人さん 「(こいつ、ピクニックの人かと思ったら以外に本質的な質問してくるぞ)

()内は心の声です

規模は様々に対応していこうと考えているが、朝日町に応じた適正の規模はある。

大規模の農業を誘致するのではなく、町内で内発的に上がった企画の支援をメインに我々
は行っているよ。」

そんな感じで、産業創造推進機構では

現在、町内の9つの団体の支援を行っているそうです。

ハムの「ロイフェン」、ジャム・コンポートの「ママビーンズ」、「水本とんちゃん牧場(放牧豚)」

「大谷野菜クラブ」、「中沢味楽来(みらくる)工房(みそ)」、アップルパイの「一心堂」

「森友会」「和合小松菜組合」「JA 女性部」

それぞれが特徴ある活動をしています。

なお、ここで開発された食材を宅配でお届けするサービス

「森のだんらん」はここ、産業創造推進機構が行っています。

乱入してきた食材

産業創造推進機構が何かがわかってきた2人と1匹。

その時です。

「はーい、しゃぶしゃぶ入ります！！」



なんと、

水本とんちゃん牧場と産業創造推進機構が一緒に行っている

放牧豚「あっぷるニュー豚」のしゃぶしゃぶが乱入してきたのです！！

正人さん「とりあえず我々が商品化したものを食べてもらいたい。

この放牧豚については担当の伸昌君からきいてくれ！」



後の説明を任された放牧豚の担当・伸昌さん

しゃぶしゃぶの準備の間、放牧豚の説明をしてくれることに…

しかし、いざ、放牧豚の話を知ろうとしたら、伸昌さんから衝撃の一言が！！

伸昌さん「実は私、豚とかかわってまだ2年目なんですよ…」

ウサヒ「ええ！じゃあどうやって豚育てたの？！」

伸昌さん「センターも私も手探りだったのでいっぱい勉強しました。

朝日町でのびのびと豚が成長できるよう、たくさん試行錯誤でした…」

語られる、放牧豚の開発裏にはどんな苦勞が…



苦労話も興味があるが、しゃぶしゃぶも気になるという緊迫した環境

はたして放牧豚の舞台裏とは…次回に続く > >



次回、豚肉が舞い、小松菜が唸る！！「森のだんらん編 2」につづく…

イベント出演のお知らせ

今週末の桃色ウサビ登場情報です

3月9日(土曜日)

埼玉県志木市に桃色ウサビ登場！！やななちゃんの卒業式に参加します。

「やななの卒業式 in 関東」

志木市民会館パルシティホール

2013年3月9日(土曜日)11時00分～16時00分

3月10日(日曜日)

蔵王のマスコット「じゅっきー君」が Asahi 自然観スノーパークにやってくる！！

もちろん、埼玉帰りのウサビもいます。

時間は11時より。

ロッジしらくらのあたりに出沒予定です。30分程度。

一緒に写真を撮ったり、お菓子を食べたりしましょう。

(ウサビとじゅっきーからのプレゼントもあります)



当日は、Asahi 自然観でぼくらと握手！！